

グリーンサークル33号

クローズアップ 芦沢 芳美
 活動団体紹介 多摩中央公園班
 講座紹介 平成31年度緑の探検隊
 多摩市みどりのかわら版 小林 功、引地 毅



アオイスミレ

~クローズアップ~

多摩東寺方緑地保全地域

芦沢 芳美

多摩東寺方緑地保全地域は、東京都の「東京における自然の保護と回復に関する条例」をもとに46番目に指定された緑地保全地域である。戦後、東京の都市化が急速に進み、多摩市も多摩ニュータウン開発によって多摩丘陵が大きく様変わりをしてきている。東京都はこうした失われつつある東京の自然を保全地域に指定することによって、現在都内で50箇所を指定し面積約758haの自然の保護に努めてきた。私の住む近くにある「七国山緑地保全地域」約20ha（昭和50年指定2番目）や「図師小野路歴史環境保全地域」約37ha（昭和53年指定8番目）は初期の頃の保全地域指定で、宅地開発を免れ広域的に指定された保全地域であり豊かな丘陵の山々を醸し出している。近年は多摩市にある「多摩東寺方緑地保全地域」約1.5ha（平成19年指定46番目）や「連光寺・若葉台里山保全地域」約3.3ha（平成26年指定50番目）も開発の狭間にあつて、危うく開発を免れた貴重な保全地域である。

私が多摩東寺方緑地保全地域に足を踏み入れたのは、市の職員だった平成20年の春だと記憶している。その数年前に闘病から職場復帰の末、公園緑地課に移動し、保全事業の一環である「グリーンキャンパスプログラム」の担当になったのがきっかけでこの緑の森に出会い、自然の息吹を体に吸収するかのよう、私の体は次第に健康を取り戻していった。その後、定年退職を機にこの緑地のボランティアグループである「つぼみグループ」に入会し、東京都の緑のボランティア講座

を受講して都内にある緑地保全地域や御岳山等を訪れ都市部に残された緑地に接してきた。

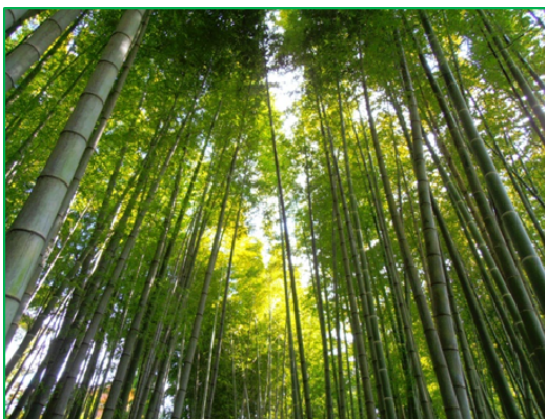
「つぼみグループ」は東京都の緑のボランティア講座を受講したメンバーで構成されているので区部の板橋や中野などから来る人もいる。また私や市のボランティア講座の受講生も受け入れ、あまり拘束せず自由に活動するのが特徴である。



児童館の保全活動体験

多摩東寺方緑地保全地域は、桜ヶ丘団地と東寺方に挟まれた緩やかな斜面地にあり、広い道路に接していないため、この緑地を横断する赤道（昔の農道）を通過する市民の人以外はあまり気づかない場所にある。このことから、宅地開発から免れ保全地域として確保されたともいえる。また、動植物が息できる静寂な環境にあることから鳥類が多く飛来してくるのも特徴である。「つぼみグループ」は、こうした緑地の保全と保護のために日頃活動しているが、東京都の事業「里山にGO」や地元の児童館の事業「タケノコ探検隊」などのお手伝いをして、地域の人達との交流や区部の親子さんとの触れ合い活動を行い、緑の保全の大切さをアピールし、ボランティア活動への理解を訴えている。

私達「つぼみグループ」のメンバーも他の団体と同様、高齢化が進み、世代交代の時期に来ている。この貴重な自然環境を良好に残すためにも、次世代の仲間を増やすことが、急務の時を迎えている。そのような意味からも、多摩市グリーンボランティア森木会の存在感は大きく、次世代の若者に緑環境の大切さを語る育成機関であることは間違いないと思うし、森木会もまた新しい力を求める時代に来ているように思えてならない。これからも緑地ボランティア活動の一員として、少しでもお役立てできるよう努めて行きたいと思っている。



静寂な景観を保つ東寺方の竹林

～活動団体クローズアップ～

多摩中央公園班

班長 上田 誠

多摩中央公園の概要

中央公園は多摩センター駅から南に歩いて5分のパルテノン施設のある丘陵地帯に位置し、多摩ニュータウンのシンボルとなっている。この公園を西～南側を囲むようにはしる遊歩道に沿った区域は、開発された旧多摩丘陵のわずかに残された竹林・雑木林地帯になっている。

多摩中央公園班の活動

班の活動地域は、上記の竹林・雑木林であるが、竹林が約2/3を占める。ここを中1・2・3・4・5・竹林地区にわけて、地区ごとの特徴を生かした管理を行う。

パルテノン施設に近い中1地区は、活動を最初に始めた地区であり、周囲を雑木林に囲まれた明るい広場を持つ。ここは陽がよく差し込みキンランやタマノカンアオイ、二輪草などが群生するようになったため希少植物の養生地としていく方向で管理している。

中2,3地区や竹林地区は美しい竹林にすることを目指して伐倒や整備を行っている。

伐倒した竹は捨てるのではなく、竹林周囲の竹垣や腐葉土を作るピットに利用し、又竹の笹枝も乾燥させて穂垣として利用する。冬には周囲の自治会のドント焼きに提供している。

春には、タケノコが多く出るのでグリーンライブセンターの講座として「タケノコと遊ぼう」を竹林地区中心に行い、毎年多くの親子が参加しタケノコ掘りを楽しむので、班員も少しでも多く取れるようお手伝いしている。



竹を切り出すのも一苦労

中4,5地区は雑木林であり、夏には中央公園に来る子供たちが小山の中を走り回る。また冬には雪が降った後などそり滑りをして楽しんでいる。

未来のビジョン

多摩市のシンボルである中央公園に近接している場所なので、付近には多くの人を訪れる。また東側には住宅も多く接している。これらのことから構想として、公園、活動地域内に命を育んでいる多様な生物と市民が共生できる樹木エリアを目指している。

このための管理目標として、

- (1) 竹林地区は、明るく見た目にも美しい竹の林とする
- (2) 公園に隣接する雑木林は、子供達が安心して安全に遊べるような樹林とする
- (3) 奥の広場は、希少植物を育成し市民にも見てもらえるような明るい疎林にする。

以上のような目標で班員一同楽しみながら、勉強しながら活動していきたい。

活動日や連絡先

活動日 第2・第4土曜日

9時30分～12時30分集合場所 グリーンライブセンター

連絡先 上田 誠(カミタ マコト) m-kamita@mug.biglobe.ne.jp

または

グリーンライブセンター 042-375-8716



竹は垣根として利用

～講座クローズアップ～ 2019年度 緑の探検隊 「先人の知恵を活かして、自然のめぐみで???を創ります！」

環境教育インストラクター 峰岸 久雄

1. 緑の探検隊

緑の探検隊は、多摩市立グリーンライブセンターが平成2(1990)年4月29日に開園した翌月の5月27日にスタートした最も長い講座です。「緑ってなあに？」をテーマに野草観察と植物標本づくりを行いました。スタート時から体感型の環境教育プログラムを実践し「知識を知恵に、暮らしに役立つものに」常に視野に五官と五感で学び、壊れかかっている子どもたちの体内時計を自然の状態に戻すことを目指しています。

宮沢賢治の「みんなが幸せにならなければほんとうの幸せではない」、金子みすゞの「みんな違ってみんないい」レイチェルカーソンの「センスオブワンダー(驚きと発見)」の3人の3つの言葉を基軸に、温帯モンスーン気候と全土を覆う森林褐色土壌が創る太陽系のユートピア日本列島の多摩の自然の中で、その自然を未来永劫護っていければという思いでプログラムを考えています。

2. 2019年度 緑の探検隊 プログラム案内

平成31年度は「先人の知恵を活かして、自然のめぐみで???を創ります」を年間テーマとし、参加者の個性を活かせるプログラムの実践を目指します。

第1回 タンポポの花で黄色い布を創ります！(4月)

春を代表する最も身近な花タンポポの花の黄色を布に移す草木染めのプログラムです。アルミ、鉄、銅の3種類の手作りの媒染液を使い、染め色の違いを学び、自分色のハンカチに染め上げます。

第2回 竹の釜でタケノコごはんを創ります！(5月)

竹の風味が残っている去年の竹を使って釜を作り、タケノコごはんを炊く食育プログラムです。身近な竹



第2回「竹の釜でタケノコごはんを創ります！」

が調理器具として利用できることを学び、旬のタケノコを美味しくいただきます。

第3回 身近な植物で虫よけスプレーを創ります！(6月)

ミントやドクダミ等、身近にある植物を活用して安

全で体にやさしい虫よけスプレーを創る初挑戦プログラムです。

第4回「森の恵みで楽器を創ります！」(7月)

森の木や竹を使ったオシャレなオリジナル楽器を創る木育プログラムです。創った楽器で森の中でミニコンサートを行います。

第5回「繭を紡いでランプシェードを創ります！」(8月)

カイコの繭を紡ぎながら、クワの枝で作った枠に巻きつけさらさら光る絹の膜のランプシェードを創る木育プログラムで、中に入れるミニランプも創ります。

第6回「ドングリを使ってモンブランケーキを創ります！」(9月)

公園や街路樹によく植えられているマテバシイのドングリをパウダーにしたクリームで、モンブランケーキを創る食育プログラムです。ケーキを飾るドングリの甘露煮も創ります。

第7回「木の実の標本を創ります！」(10月)

実りの秋、ドングリを中心にいろいろな木の実を集めて標本を創る木育プログラムです。形や大きさ、殻斗の違いなどを並べたオシャレな標本を創る初挑戦プログラムです。

第8回「クワの樹皮から紙を創ります！」(11月)

クワの樹皮を蒸して、煮込んで砕いて和紙の原料を創り手漉きのハガキを創る木育プログラムです。繋ぎ材効果と白さを出すために牛乳パックを加えます。押花や押葉と一緒に漉きこんだオリジナルハガキに仕上げます。

第9回「お正月飾りを創ります！」(12月)

身近にある竹や松を組み合わせ、玄関や門扉用のお正月飾りを創る木育プログラムです。お正月が終わったら一輪ざしの花入れとして活用できる優れものです。

特別編で、夏休みに「夜の雑木林探検」も予定しています。

緑の探検隊開催概要

対象:小学3年生～6年生(小学生以外の参加は、臨機応変に対応します)。定員:20名。参加費:1人1500円(材料費込み)。期日:4月～12月までの月1回日曜日。時間:9:30～12:30。場所:グリーンライブセンター。初めの30分くらいは参加者のレベルに合わせて、その日のプログラムに関連した自然や植物、歴史や文化などのお話をします。身近にある道具や材料を使って出来るプログラムです。

申込詳細は、グリーンライブセンターまでお問い合わせください。

多摩市みどりのかわら版

平成31年3月をもって環境部から退職される方々です

公園緑地課 小林 功

私と多摩グリーンボランティア森木会の皆様との出会いは、今から7年前の平成24年4月、当時のみどりと環境課に異動し、グリーンライブセンター及びボランティア担当となったことが始まりでした。入庁から既に30年以上経っていましたが、公園緑地の仕事は初めてのことでした。

このため異動した当初は、都市を支える基盤施設でも、雨や雪が降っても使わなければならないのが道路で、使わなくても差し支えないのが公園であり、「無ければ困る道路」に対し「あれば良い公園」くらいの感覚であったことを思い出します。

このような中で、多摩グリーンボランティア森木会（以下、森木会とする。）と出会い、そのルーツを知ると同時に、森木会の運営会議やグリーンボランティア講座等を通じ、森木会の皆さんの「多摩市のみどりに対する想い」を存分に実感させていただいたことで、

多摩市立グリーンライブセンター 引地 毅

グリーンライブセンターに来て、早3年になり、この3月で職場を離れますが、このグリーンライブセンターのことを振り返ってみたいと思います。

以前、隣のパルテノン多摩には16、7年前にいたことがあり、その時も1週間に2度3度グリーンライブセンターの様子を見に来ていて、木に囲まれたホールや事務室、ピラミッドの形をした温室やガーデンなどは分かっていたこともあり、事務室のデスクを前に座っても、すぐに馴染むことが出来ました。

ところが、目の前に座る人は日毎に変わり、顔も仕事ぶりも全然違うので変化があつて面白いのと、毎日話すことに事欠かなかった事でした。

それと、ガーデンに出ても、バラは分かりますが、他の花は何となく分からないままでしたが、ガーデンの中の桂とアケボノ杉、米松、シラカシの木の名前は覚えられるようになり、緑地や公園に行っても、コナラ、クヌギ、シラカシ、ケヤキ、クスノキなどの木は、

公園や緑地に対する私の当初の考えは、大変浅はかなものであったと痛感させられました。

既に第17期のグリーンボランティア初級講座を修了し、現在約260名の方々が森木会の会員として市内の公園や緑地での活動に取り組んでいただいていると伺っています。川添会長はじめ森木会の皆様におかれましては、引き続き、安全第一をモットーに仲間と共に楽しく、自己の健康増進のために末永く活動していただき、結果として、市内の公園や緑地の保全・育成にお力をお貸しいただきたくお願い申し上げます。

早いもので、この3月で60才の定年退職を迎えることとなりました。概ね健康で1回目の退職を迎えられたことは、この間、支えてくださった多くの皆様のお陰だと、この場を借りて感謝申し上げる次第です。最後になりますが、皆さまのご健康と森木会の益々の発展を祈念いたします。本当にありがとうございました。

一目で見分けられるようになったということでした。

それから、グリーンライブセンターは「みどり」の拠点と言われていますが、花や木だけではなく、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、カラスなどがえさや水を求めて飛んで来ると、その水のある「壁泉」の池にはメダカ、川エビ、金魚などがいて、生き物にはみどりと水に溢れた憩いの空間になっている所でした。

そんな中で、水とみどりと、日毎に変わるグリーンライブセンターのスタッフの皆様にも囲まれて仕事をすることは、時間が日々進む中でも少し立ち止まって、今までのことなどの振り返りや、これからのことを考える機会になったということ、このことは、私にとって、とても良い時間を経験することが出来たと思います。

このようなことから、これから、ずっと今までと同じような雰囲気にも囲まれたグリーンライブセンターであつて欲しいと思わざるを得ません。

皆様には、大変お世話になりました誠にありがとうございました。

表紙の絵

「アオイスミレ」絵・内城葉子

スマイルの仲間では春早く咲き始めます。

冷たい風から身を守るように落ち葉をコートにして埋もれるように咲いています。

多摩市グリーンボランティア通信 グリーンサークル33号

発行日：2019年3月1日

編集・発行責任：多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>